



学校法人 豊野学園
豊野高等専修学校
生活介護コース

フットセラピスト
プラクティカル
テキスト

1. フットセラピー概論 p 3
2. フットセラピー実習 p13
3. 足の解剖生理学 p31
4. ハンドセラピー実習 p43

1. フットセラピー概論

【 内容 】

1. はじめに

2. 足裏療法あしうらりょうほうの歴史れきし

3. 足裏療法あしうらりょうほう(反射療法はんしゃりょうほう)としての確立かくりつ

4. 定義ていぎ

5. なぜ「足裏あしうら」が良いのかよ

6. 「足あしは第2の心臓しんぞう」

7. 期待きたいされる効果こうか

8. フットセラピストとして

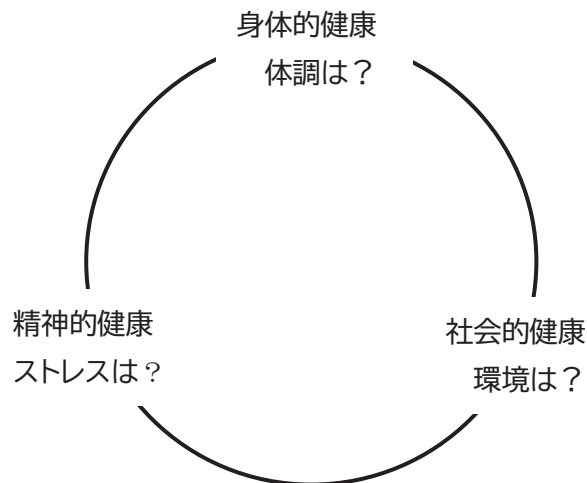
1. はじめに

あなたにとって「健康」とは？

【 WHO (世界保健機関)での定訳 】

「健康とは、完全な肉体的、精神的及び社会的福祉の状態であり単に疾病また

は病弱の存在しないことではない」 日本語訳(1951年条約第1号として交付)



当コースでは、リフレクソロジストを「フットセラピスト」という名前で表しています。

セラピー Therapy = 「癒し」

足を通してのセラピスト=フットセラピスト養成のために、このコースは始まりました。足

への施術で、身体を良い状態にするだけでなく、足を通して対するその人を心から

癒してほしい「心と身体のケア」が出来る施術者になってほしいと思います。

さあ、そのための第1歩を踏み出しましょう。

2. 足裏療法の歴史

紀元前2330年頃

エジプトの古墳壁画
(アンクオーマルの墓)



中国の古代医学書「黄帝内経」

足裏の状態から病気を診断し治療する「観趾法」の記述

アメリカン・インディアンの間では、足の刺激を病気の治療や鎮痛に使用

日本では… 奈良薬師寺「仏足石」(国宝) 753年刻

3. 足裏療法(反射療法)としての確立

完全な麻酔が存在しない中、手術中の患者が椅子の肘掛の角に手の腹を強く

押し付ける行為を発見観察、1913年「ゾーンセラピー」理論を発表

身体の表面及び耳鼻咽喉科領域において、

圧力を加えることで、他の部位の痛みを和らげ

あるいは無くする効果—麻酔的效果
があることを発見。



ウィリアム・ヘンリー・ホープ・フィッツジェラルド博士
(アメリカ:1872-1942)

人体のある部位を圧迫すると離れた。他の部位にも効果が及ぶというこの理論は

反射療法の第1歩となる。

フィッツジェラルド博士のゾーンセラピーを発展させ足の特定な部位

(反射区)が身体の各部位に対応していることを突き止める

1938年「Stories the Feet Have Told Thru Reflexology」(足は語る)著

「足の反射療法」の原点

足底に人体の臓器・器官を描いた「フットチャート(足裏反射区図)」を
つくる



ユナイス・イングハム女史
(アメリカ:1899-1974)

4. 定義

1)「反射」とは

じんたい ぜんたいてき こうぞう じんたい いちぶ どうえい
人体の全体的な構造が、人体のある一部に投影される。

あしうらりょうほう あし からだ ぜんぶ きかん どうえい とくてい ぶぶん じんたい きかん
足裏療法でいうと、足に身体の全部の器官が投影され、足の特定な部分が身体の器官と

ちよくせつ かんれん も しんけいてき
直接にエネルギー関連を持つ(神経的なつながりがある)

2)足裏療法の定義

からだ すべ がい たいおう はんしゃ く はたら しんたい きゆう はたら そくしん
身体の全ての部位に対応した反射区に働きかけることで、身体機能の働きを促進し

しんたいきゆう はたらき
また、その身体機能の働きを維持している血液やリンパの流れ、老廃物の流れを良好にし

しぜんちゆりよく
人間が本来持っている自然治癒力を取り戻す方法

5. なぜ「足裏」が良いのか

1)足裏への刺激が良いという理由

- ・足はトリートメントする部分が平ら
- ・普段ソックスや靴で保護されているので、手より足の方が敏感に反応
- ・足は血液循環に大きな役割を果たす場所

2)「ツボ」という面から

- ・「十二原穴」

6. 足は第2の心臓

1) 血液循環

心臓から出た血液が動脈を通して全身に分配され、毛細血管により体内細胞に酸素を

渡し、炭酸ガスや老廃物を受け取り、静脈を通り再び心臓に戻る

この循環が上手くいかないと、末端の細胞まで酸素が届かず、組織の活力を失い、また

老廃物を運び去ることが出来ずにたまってしまう。

血管に沿いリンパ管と神経組織が通っているので、老廃物がたまりしこりになると、リン

パや神経の働きまで鈍ってしまう

2) 足は第2の心臓

心臓は各器官に血液を送るポンプ

足は送られてきた血液を心臓に送り返すポンプ

【心臓から下の部位において】

動脈血は、心臓の収縮（ポンプの働き）及び重力によって下がり器官に送られる。

静脈血は足から心臓へ、重力に逆らって上がらなければならないが、だが足には心臓のよ

うなポンプの役目をする器官が無い、そのポンプの役目をするのが足の筋肉収縮である。

筋肉収縮により、血管も収縮し静脈血も上がるが、また重力により下がってしまう。

その時に、静脈血管内の“弁”が収縮により閉じ、その弁により血液が下がることなく、

また収縮しゅうしゆくが繰り返くされることかえによって、静脈血管内じょうみやくけつかんないの静脈血じょうみやくけつは心臓しんぞうまで到達とうたつすることができる。つまり、足の筋肉収縮きんにくしゅうしゆくがポンプ(=心臓)と同じような働きはたらをするため「足は第2の心臓しんぞう」と呼ばれる。

7. 期待される効果

① 医学的効果いがくてきこうか

血液循環けつえきじゆんかんが良好りょうこうとなる

⇒ 自然治癒力しぜんちゆりよく

リンパ液えきの流れながが活発かつぱつになる

② 精神的効果せいしんてきこうか

血液けつえきやリンパ液えきの流れながが整ととのうことにより、

神経しんけいへの圧迫あっぱくがなくなり

⇒ ストレス解消かいしょう・癒いやし

痛みいたが緩和かんわされリラックスできる

③ 美容的効果びようてきこうか

むくみべんぴ、便秘かいしょうなどが解消される

身体からだの基礎代謝きそたいしゃが高たかまる

⇒ 身体的改善しんたいてきかいぜん

④ その他

それぞれの部位(ゾーン)を通して

自分の体調を確認できる

⇒ 早期発見と解消

健康感への認識が高まる

8. フットセラピストとして

1) 心構え

フットセラピストは病気を治したり診断をするものではありません。

ですが、足を通して身体と心を元気にする、自然治癒力を高め、健康を取り戻すサポートが

できます。セラピストとしても、その人の抱える精神的な悩みに対して完璧な答えは出せな

いかかもしれません。でも心をほぐしてあげることは出来るはず。

少しでも良い状態になれるよう、寄り添い、心を込めた施術を提供します。

2) 触れるということ

当コースのフットセラピー施術は、すべて手で行います。棒などの器具は一切使用しません。

無意味な痛みも与えません。触れることにより、その人のストレスや心のブロックをはずし、

安らぎを与えることができる、そんなフットセラピストになっていただきたいと思います。フ

ットセラピーは相手とのコミュニケーションを深めることもできます。

3) プロとしての自覚^{じかく}

・身体^{からだ}に関する^{かん}全般的^{ぜんぱんてき}で、より幅^{はば}広^{ひろ}い知^ち識^{しき}を習^{しゅう}得^{とく}する^{しゅうとく}必要^{ひつよう}があります。

・自分^{じぶん}自身^{じしん}の状^{じょう}態^{たい}が良^{よく}くなければ、相手^{あいて}に安^{やす}らぎは与^{あた}えられませ^せん。精^{せい}神^{しん}的^{てき}にも肉^{にく}体^{たい}的^{てき}

(体^{たい}調^{ちよう})にも常^{つね}に注^{ちゅう}意^いし、自^じ分^{ぶん}を高^{たか}めます。

・共^{きょう}感^{かん}、共^{きょう}存^{ぞん}を心^{こころ}がけ^{かけ}ます。

4) その他^た

2. フットセラピー実習

【 内容 】

- 施術の前の準備・注意事項
- 反射区図1・2

1. 腎臓・尿管・膀胱
じんぞう にょうかん ぼうこう

2. 胃・膵臓・十二指腸
い すいぞう じゅうにしちよう

3. 大腸
だいちょう

4. 小腸
しょうちょう

5. 甲状腺・副甲状腺
こうじょうせん ふくこうじょうせん

6. 肺・僧帽筋(肩)・肩関節
はい そうぼうきん かた かたかんせつ

7. (左)心臓・脾臓 (右)肝臓・胆のう
しんぞう ひぞう かんぞう たん

8. 生殖腺
せいしよくせん

9. 上半身リンパ(胸部)・のど・三半規管
じょうはんしん きょうぶ さんはんきかん

10. 肩→腕→肘→膝→股関節
かた うで ひじ ひざ こかんせつ

11. 頸椎→胸椎→腰椎→仙骨→尾骨→股関節
けいつい きょうつい ようつい せんこつ びこつ こかんせつ

12. 生殖器官
せいしよくきかん

13. 調整
ちょうせい

準備

姿勢 (相手) ベッドに仰向け、足をやや高くする
リクライニングチェアに座り、足はオットマンの上
(施術者) 相手の足裏に向かう



備品 タオル : 掛けるもの、足用、蒸しタオル(拭き取り用)
クリーム : 適度なすべりがあるもの
手袋 : 指の動きがスムーズで薄い素材

施術の前に

施術前には、相手の今の状態をきちんとお聞きし
確認してからフットセラピーを始めていきましょう。

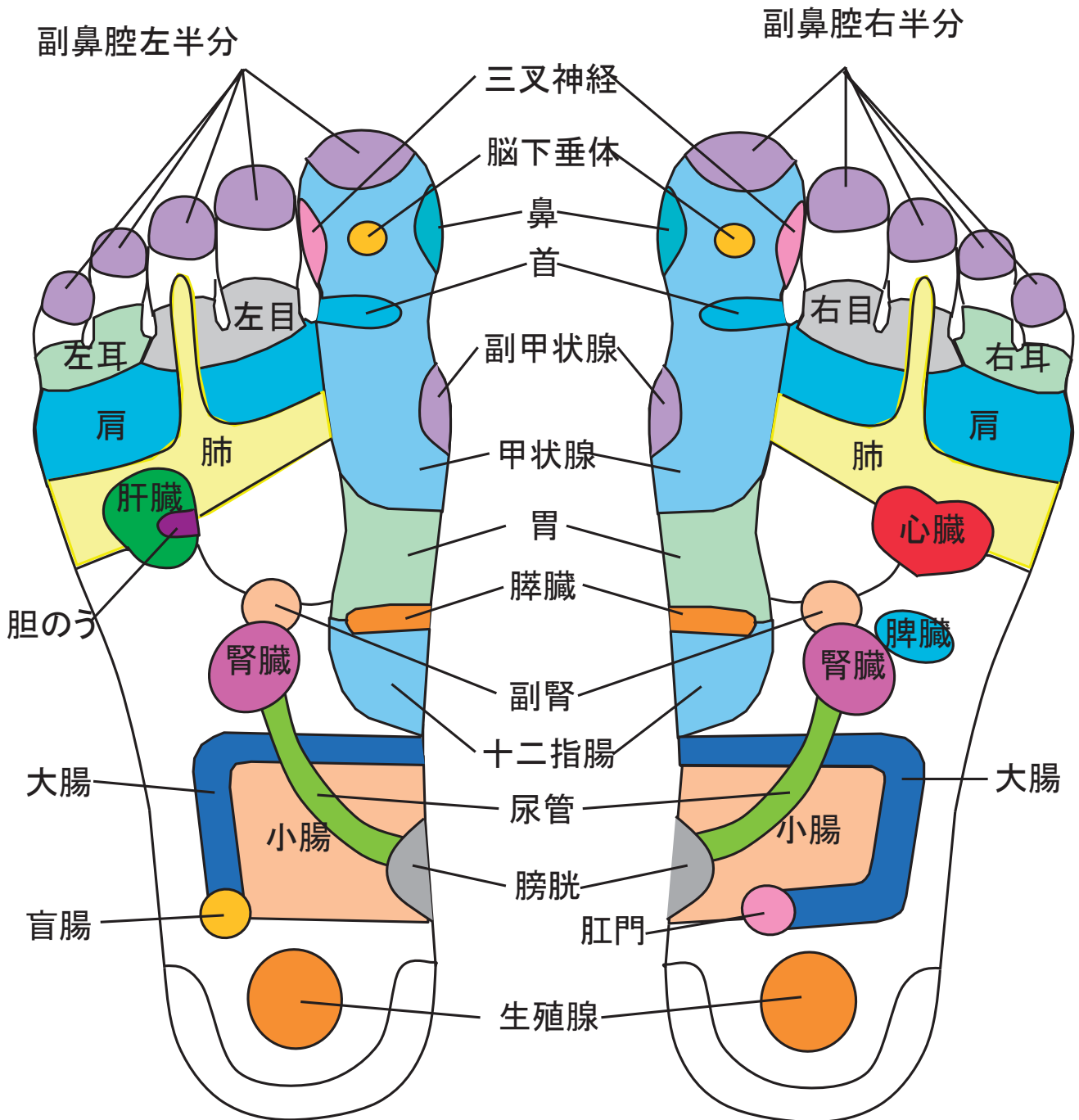


観察 聞く : 身体的精神的疲労、違和感など
見る : 皮膚状態(あざ、傷、かさつき、角質化など)
触る : 冷え、むくみ、はりなど

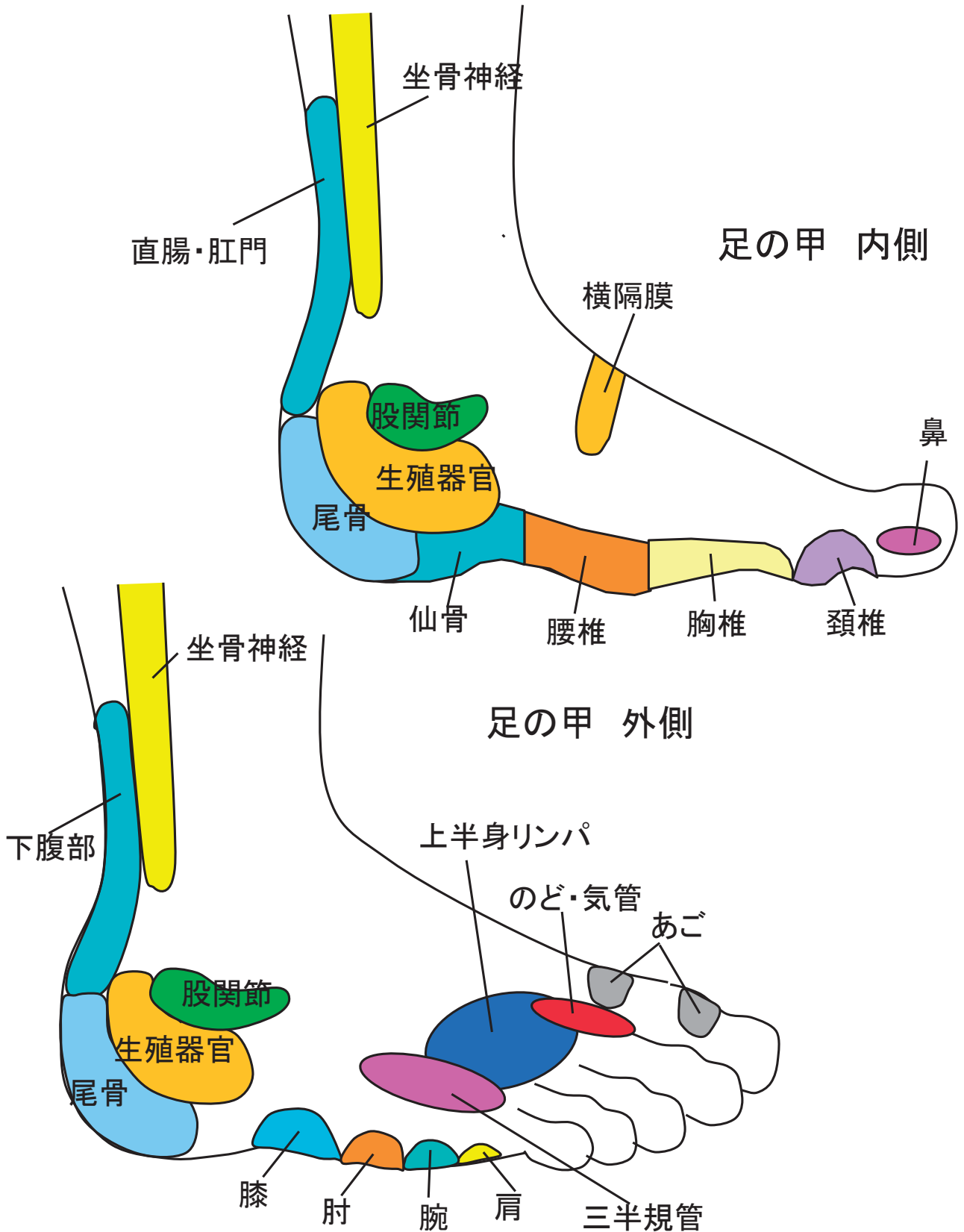
施術に適さない場合

- ・出血時
- ・疼痛時
- ・発熱など急性炎症
- ・飲酒時
- ・妊娠中や持病がある場合は、主治医に事前に確認していただく

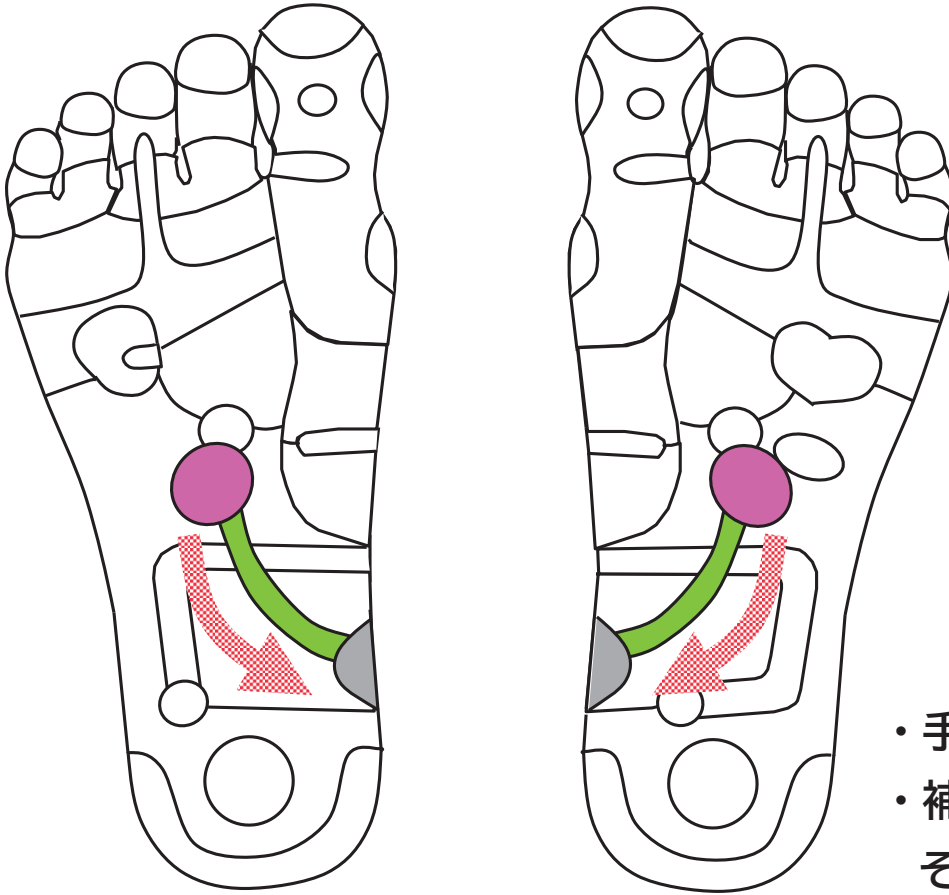
反射ゾーン



反射ゾーン



ジンゾウ ニョウカン ボウコウ
1. 腎臓→尿管→膀胱



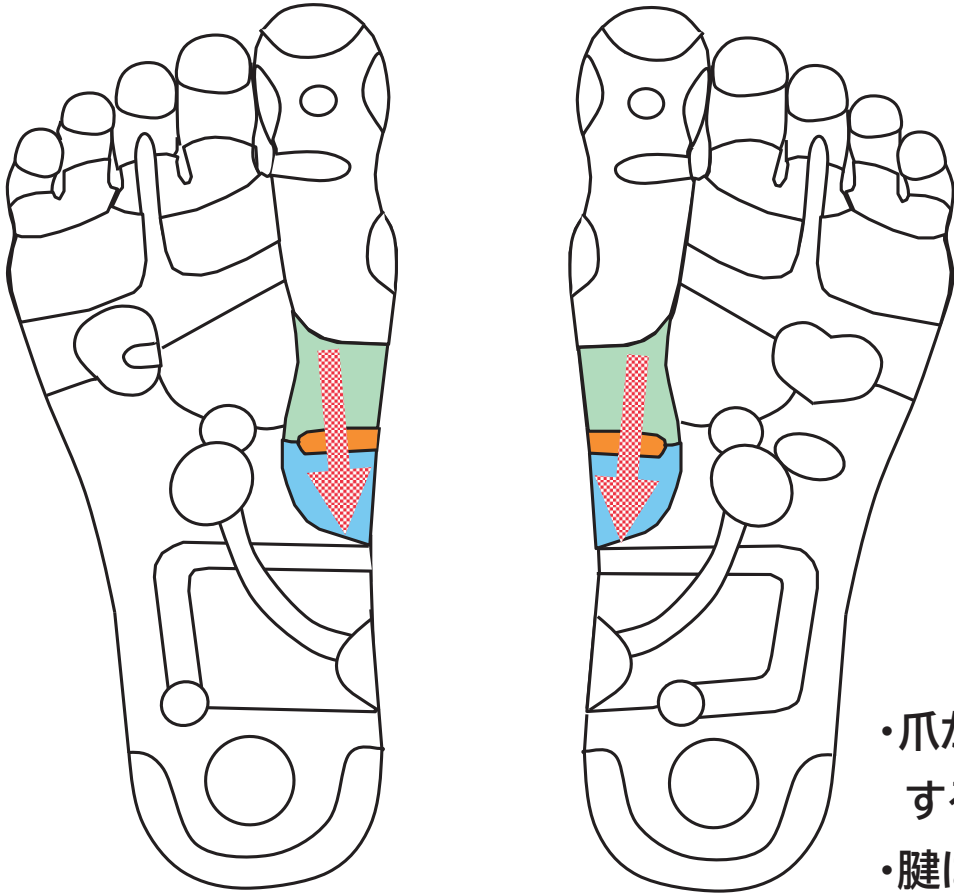
ポイント



- 手の甲は、常に水平
- 補助手は拇趾丘かそれより下

泌尿器系の反射ゾーンへの施術は、臓器の機能の流れ、すなわち腎臓→尿管→膀胱へと進める

イ スイゾウ ジュウニシチョウ
2. 胃→脾臓→十二指腸



ポイント

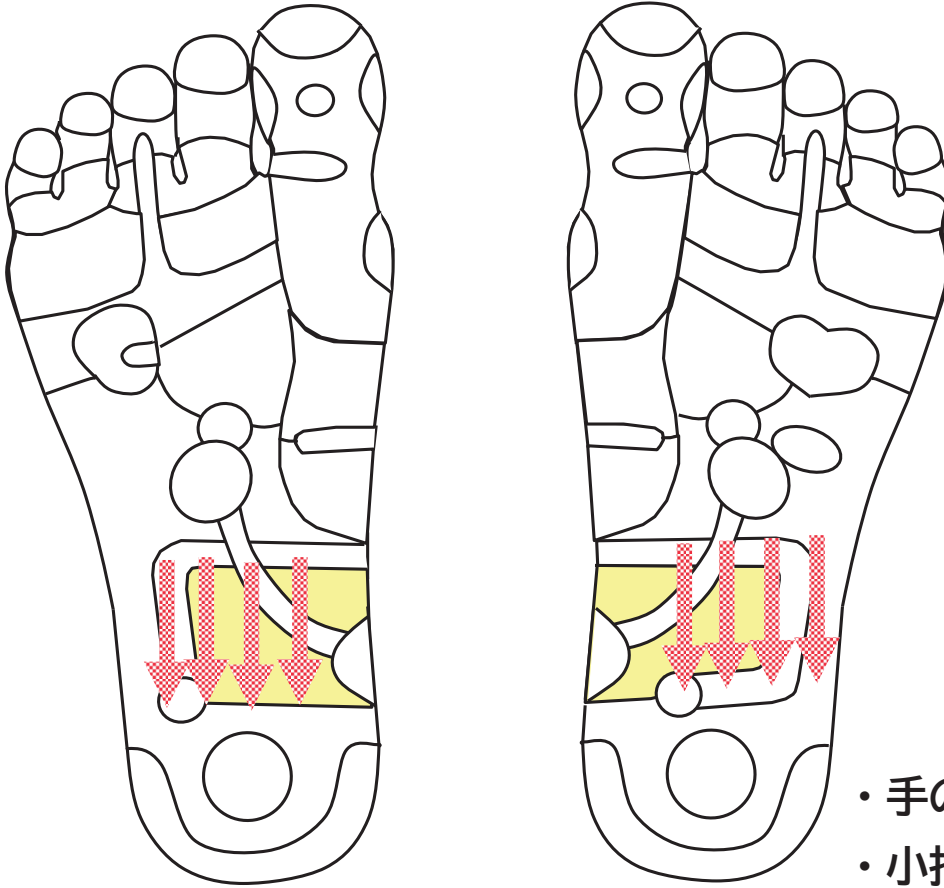


- ・爪が当たらないようにすること
- ・腱は避けること

※ 食後すぐの刺激は避ける

※ 第1趾を曲げた時に出来る、拇趾球より踵にかけての腱に注意

ショウチョウ
4. 小腸



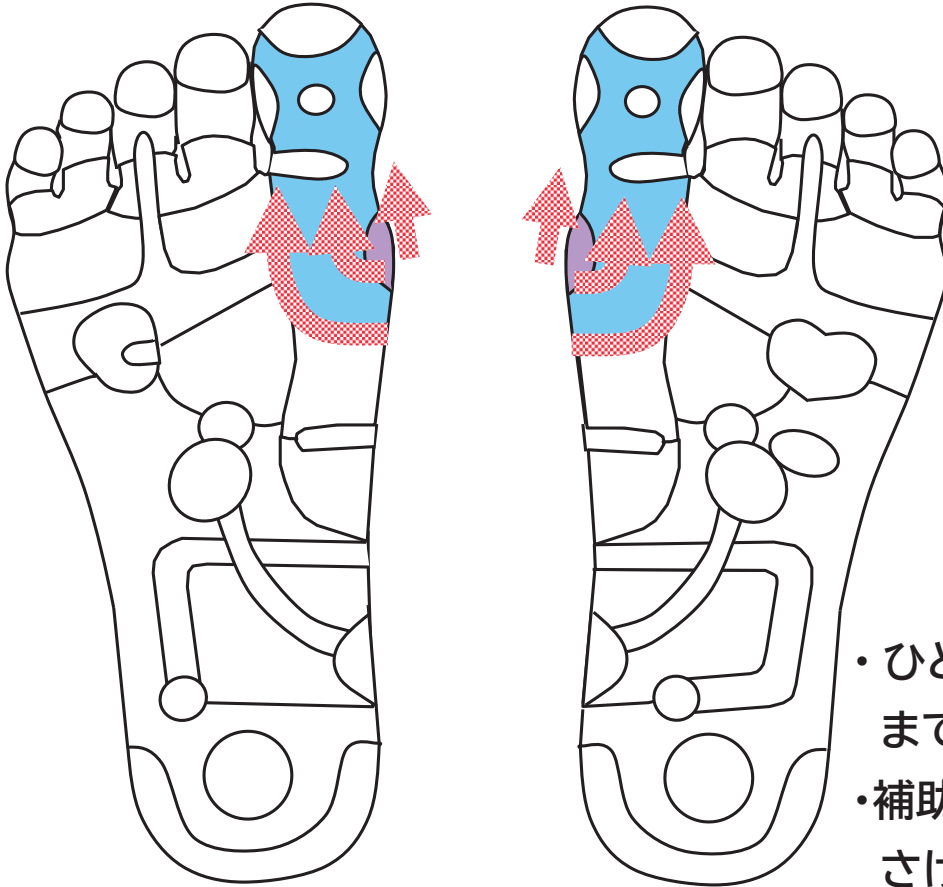
ポイント



- 手の甲を下げない
- 小指の際までしっかり

*便秘・下痢の反応の出やすい区

コウジョウセン フクコウジョウセン
5. 甲状腺・副甲状腺



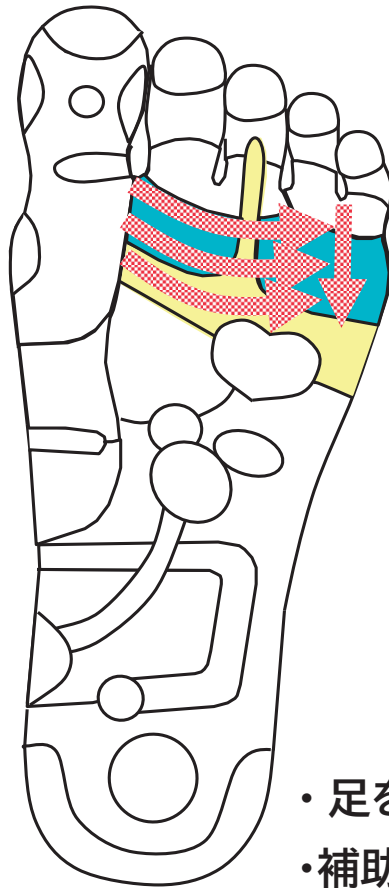
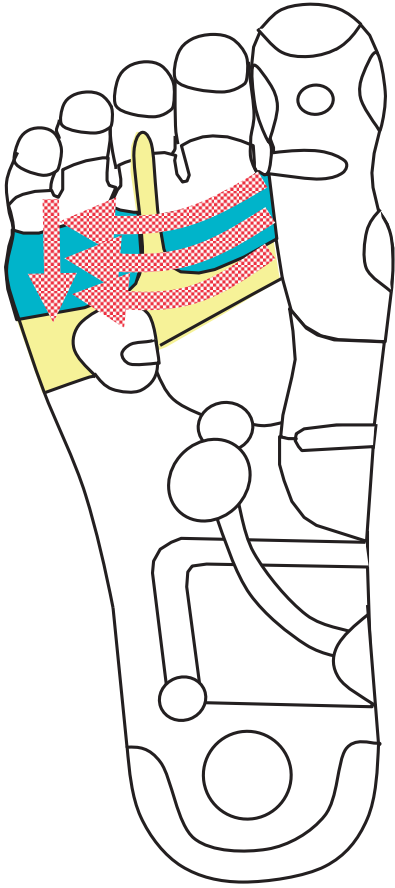
ポイント



- ひと指し指は第2関節
まではさむ
- 補助手は足の中央まで
さげる

※ホルモンバランス、ストレスの反応の出やすい区

ハイ ソウボウキン カタ カタカンセツ
6. 肺→僧帽筋(肩)→肩関節

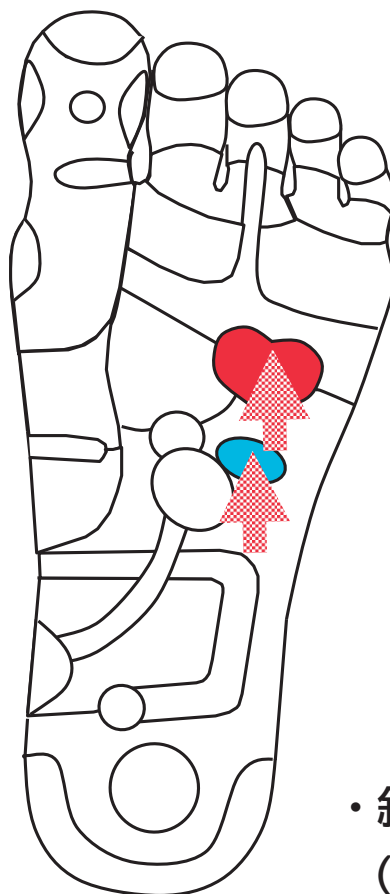
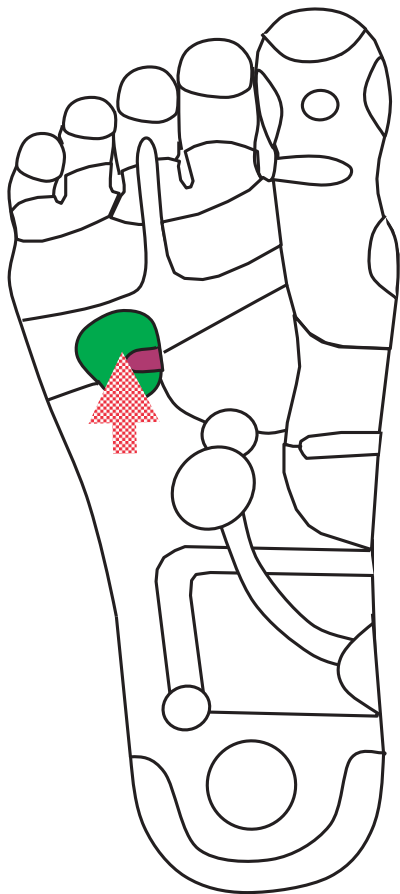


ポイント



- 足を横に広げる感じで
- 補助手は指関節の辺り

ミギ カンゾウ タン ヒダリ シンゾウ ヒゾウ
7. (右)肝臓・胆のう(左)・心臓・脾臓

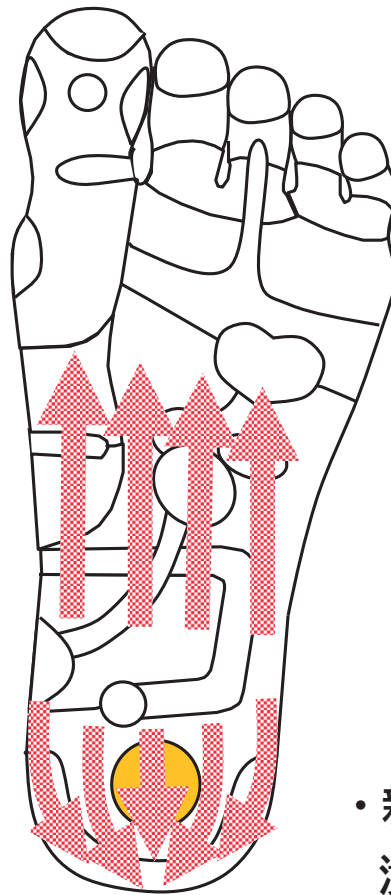
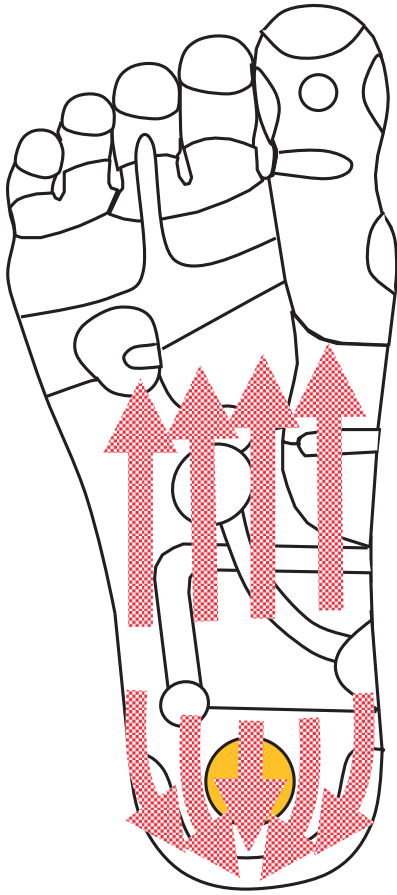


ポイント



- ・斜め上に一押しで
(体重かけて)

セイシヨクセン
8. 生殖腺

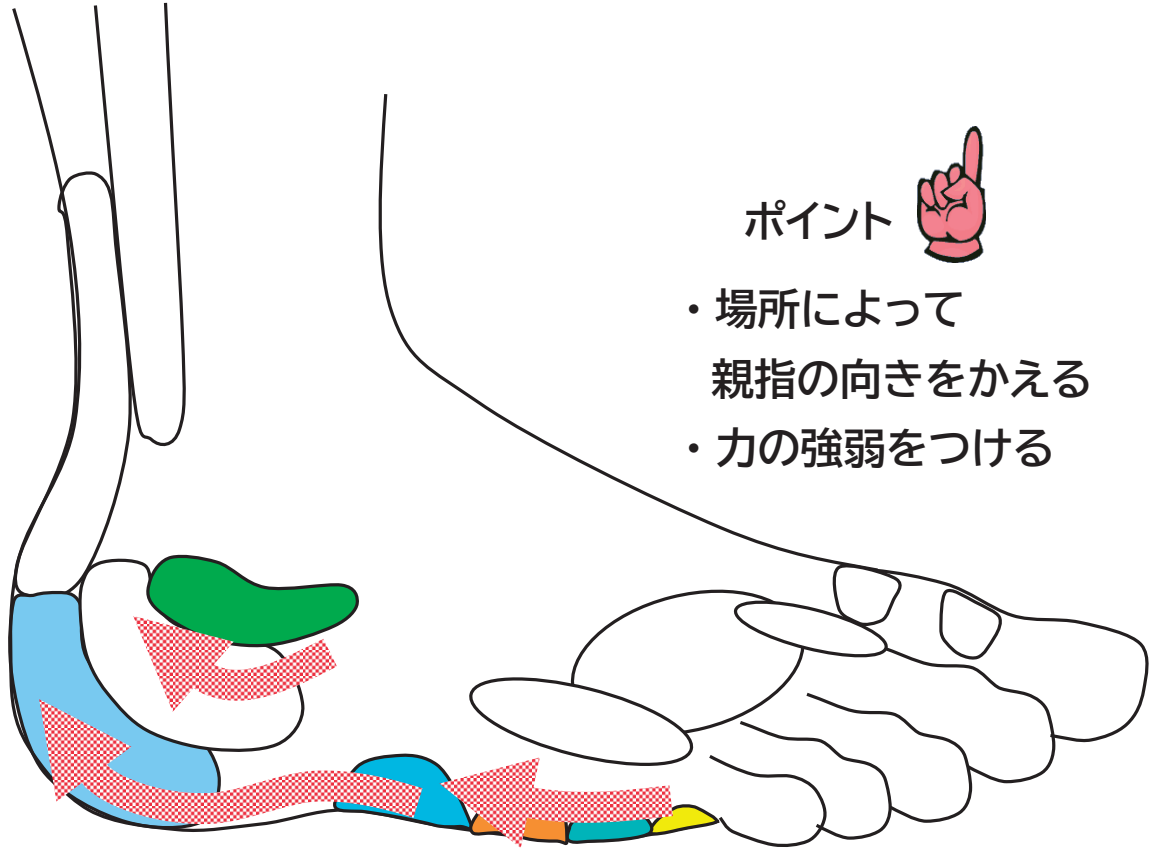


ポイント

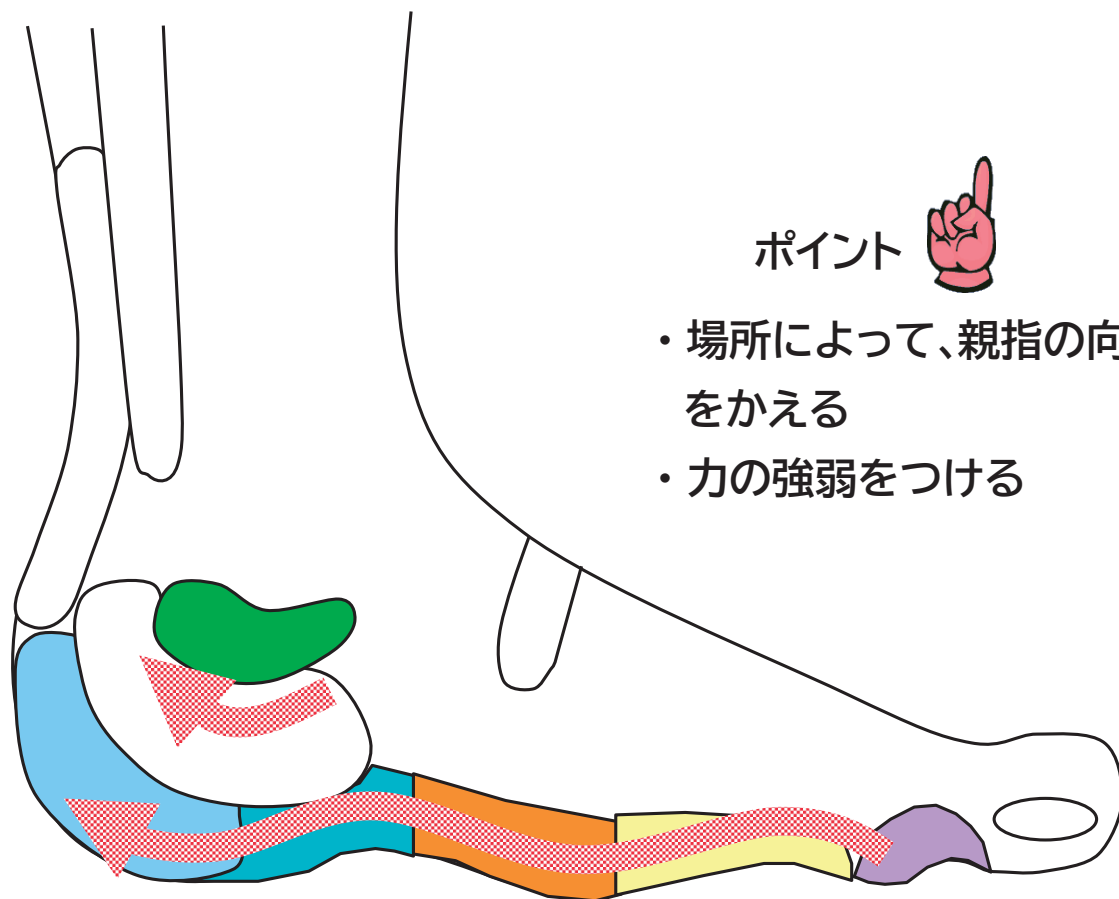


- 親指の間接が潰れない様に

カタ ウデ ヒジ ヒザ コカンセツ
10. 肩→腕→肘→膝→股関節



ケイツイ キョウツイ ヨウツイ センコツ ビコツ コカンセツ
11. 頸椎→胸椎→腰椎→仙骨→尾骨→股関節

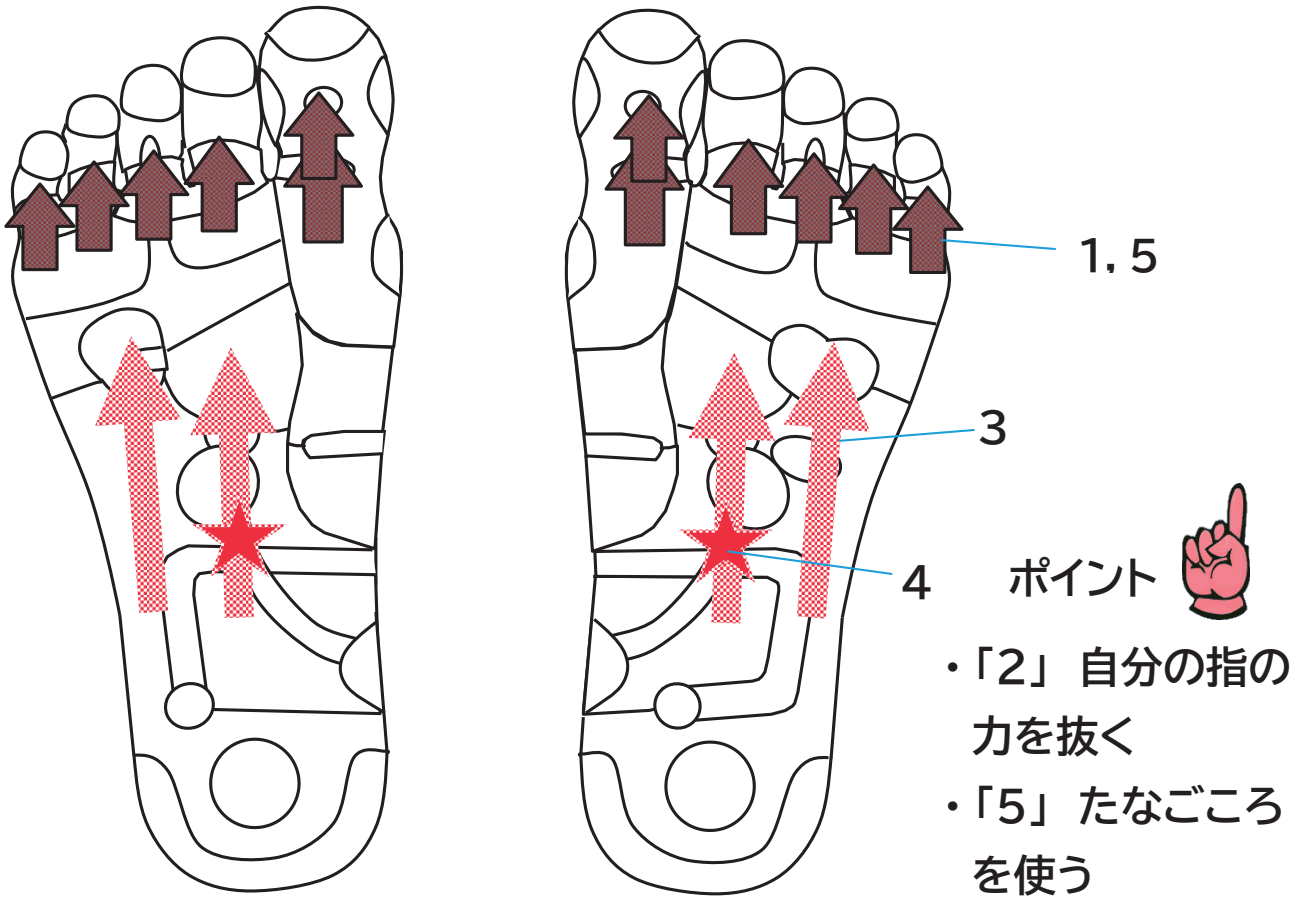


ポイント



- 場所によって、親指の向きをかえる
- 力の強弱をつける

チヨウセイ
13. 調整



- 1 つけ根を伸ばすように、指をたおす
- 2 4指を相手の指の間に入れて握る
- 3 中央と小指側の2本のラインを下から上へ押し込む
- 4 足の中央を押し込む（体重をかける）
- 5 足の甲を手前に倒す→指を向こう側へ倒す→もう一度手前に倒す

3. 足の解剖生理学

【 内容 】

1. 足の骨格について

1) 骨格系

2) 下肢骨について

3) 足骨の名称

4) 足のアーチ

2. 足の筋肉について

1) 筋肉系

2) 下肢の主な筋肉について

3) 足底筋群

1. 足の骨格について

1) 骨格系

骨格は体を形作るための中心となり、脳や心臓などの臓器を被い、外部からの衝撃

を防いだり、血液成分を作り出す造血機能がある。

人の骨は、頭の骨(22)舌の骨(1)耳の骨(6)背骨(26)胸の骨(25)両肩から指まで

の骨(64)骨盤と両下肢の骨(62)、合計206個からなる。

頭蓋 — 脳を守り、外部からの衝撃を分散させるため球状をしている(15種23個)

胸郭 — 前方は胸骨、後方は脊椎骨、間が肋骨で構成され、胸骨と肋骨は軟骨で

結合して呼吸によって動きやすくなっている(12対の肋骨と脊椎骨は関節

で結合)

脊椎 — いわゆる背骨で頸椎・胸椎・腰椎24個の椎骨は、間に椎間板というクッショ

ンが入っている(仙骨と尾骨をあわせて26個)

骨盤 — タライのような格好をした骨組みで、腸や泌尿器、生殖器を守っている

(仙骨・尾骨・第5腰椎と左右の寛骨)

脚部 — 全骨格重量の1/4を占める大腿骨をはじめ、全身を支えるクッションの役割

もある 特に足の骨格は石垣状に配列して、全体がアーチを描いている(足

は趾骨、中足骨、足根骨など)

かた ほね なんこつ やわ ほね
☆硬い骨のほか、軟骨という柔らかい骨がある

かんせつけい けいせい ほね ひょうめん
①関節形を形成する骨の表面

きょうこつ ろっこつ め
②胸骨と肋骨のつなぎ目

せきつい ついこつ ついこつ あいだ ついかんばん
③脊椎の椎骨と椎骨の間(椎間板)

みみ はな
④耳、鼻

ほね ぞうけつ きのう 【骨の造血機能】

ほね ひょうめん こつまく うす まく おお こつまく けっかん しんけい はし うちがわ
骨の表面は骨膜という薄い膜で覆われて、骨膜には血管、神経が走っている。その内側

がカルシウムとリンを主成分とする硬い骨組織で、骨の中心部はスポンジ状になっており、

こつずいこう よ けつえき せつけつきゅう はつけつきゅう けつしょうばん つく せきしよくこつずい ぞうけつ
骨髓腔と呼ばれ、血液(赤血球、白血球、血小板)がここで造られる。赤色骨髓が造血

きのう も おうしよくこつずい きのう な だいしゅっけつ あかいろ
機能を持ち、黄色骨髓はその機能が無いが、大出血などでは赤色になることもある。

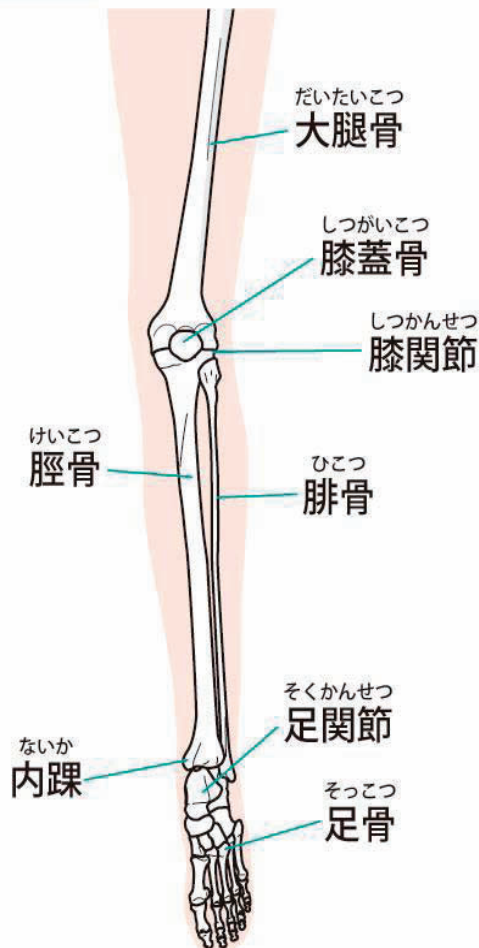
2) 下肢骨について

① 下肢帯骨

足を支える骨格であり、腸骨、恥骨、坐骨の融合した寛骨からなる

寛骨である左右の恥骨、坐骨、腸骨と合わせ、仙骨、尾骨で構成されるのが骨盤といわれる

下肢の骨格



② (自由) 下肢骨

下肢帯骨に連結する骨

大腿にあるのが大腿骨

下腿にあるのが脛骨、腓骨

③ 足骨

足首から先の骨

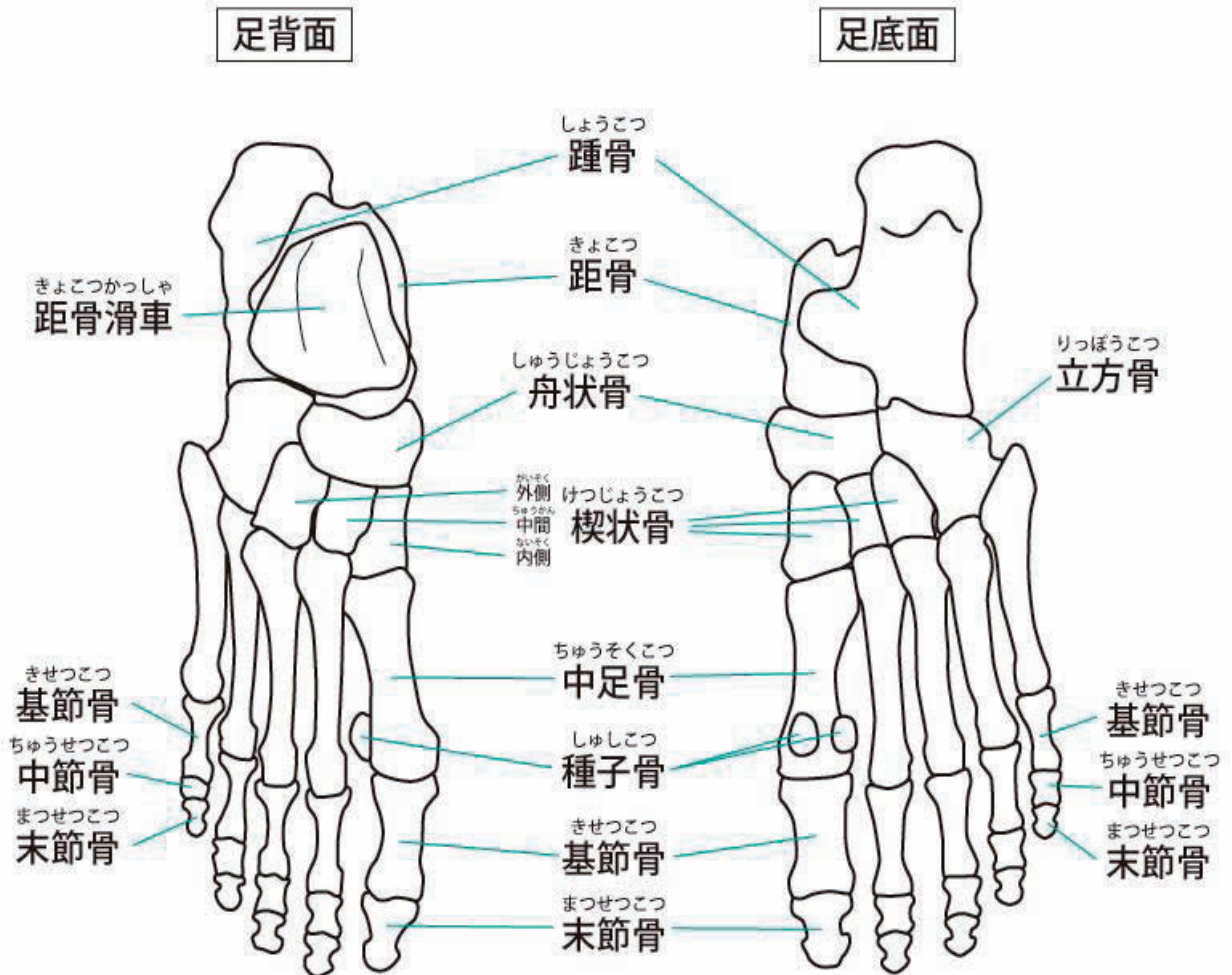
3) 足骨の名称

足骨は足首から先の骨であり、趾骨、中足骨、足根骨の3部の骨がある

趾骨 (14個) - 末節骨、中節骨、基節骨

中足骨 (5個)

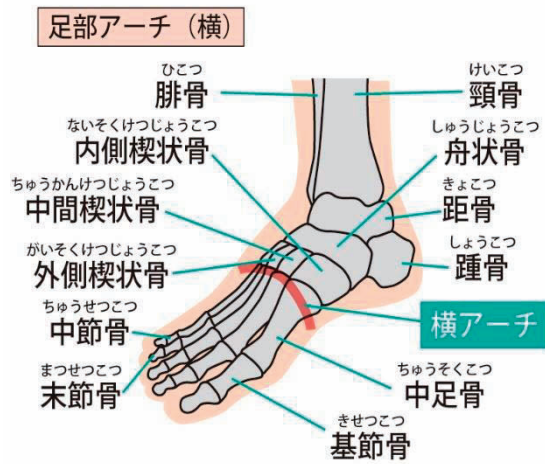
足根骨 (7個) - 内側・中間・外側楔状骨、立方骨、舟状骨、距骨、踵骨



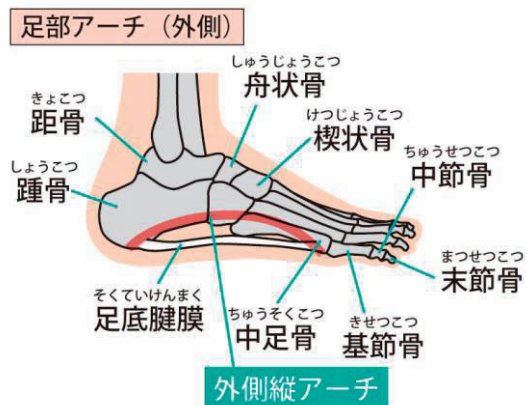
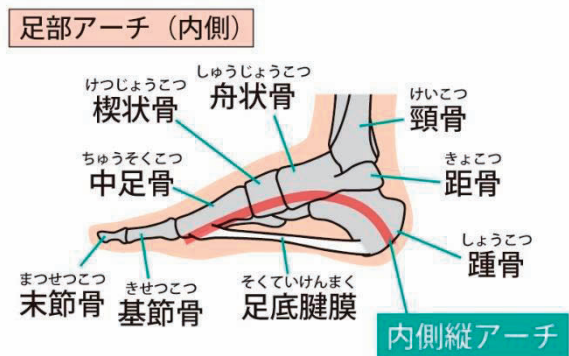
4) 足骨のアーチ

人の足には3つのアーチがあり

- 横(足)アーチ
- 内側縦アーチ(土踏まず)
- 外側縦アーチ



- この3つのアーチが連動して
- 体重の分散とバランスをとる
 - 衝撃を吸収する = 緩衝
 - 歩行(走行)推進力をアップする



2. 足の筋肉について

1) 筋肉系

筋肉は、タンパク質の繊維状のものが多数束ねられて構成されている

①骨格筋 - 骨に付着して、体を動かす

②心筋 - 心臓そのものは筋肉のかたまり

③平滑筋 - 内臓を動かす

動き方により2種に分ける

(1)随意筋 - 自分の意思で動かすことができる

(2)不随意筋 - 自律神経により動き、意識的な動作はできない

①骨格筋(随意筋)

骨に付いている筋肉で約400種、全体重の4割を占める

筋肉の両端は腱で骨とつながっていて、骨を動かすことができる

強い収縮力があるが、長時間の動作はできない

②心筋(不随意筋)

心臓は筋肉のかたまりで、筋細胞同士が横のつながりを持っていて、刺激に対し1つの

細胞のように反応する。筋肉の中ではもっとも丈夫な組織

③平滑筋(不随意筋)

心臓以外の内臓と血管そして瞳孔の筋肉は平滑筋。表面が薄い膜で被われ、筋組織が横

（^{りんじょうきん}輪状筋）と縦（^{たて じゅうそうきん}縦走筋）の2方向に配列している。胃の場合はさらに斜めに配列した斜

行筋もある。

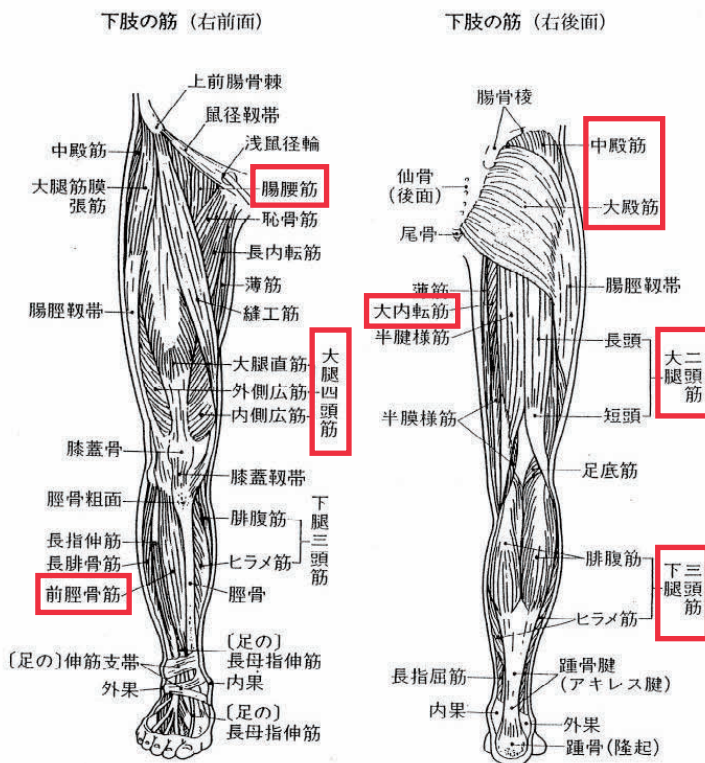
平滑筋は、1つ1つの筋細胞が骨格筋に比べ短くなっている。骨格筋に比べ収縮力は

弱い^{よわ}が、24時間働き続けることが可能^{じかん はたら つづ}。動物は動くことができるのは筋肉があるからであ

り、筋肉のエネルギー源はブドウ糖と酸素である。食物中の炭水化物（ご飯、パン、麺、芋、

豆類など）は腸で消化されブドウ糖として血液に吸収され、約7割が筋肉で使われる。

一方の酸素は、肺から血液へ吸収される。



ブドウ糖と酸素が筋肉内の酵素と反応し、二酸化炭素のなる時にエネルギーが発生し、それが筋肉の収縮エネルギーとなる。

4) 下肢の主な筋肉について

① 腸腰筋

大腰筋、小腰筋、腸骨筋の3つの筋肉の総称で、上半身と下半身をつなぎ、大腿や

膝を持ち上げたり、体が重力によって沈み込むことを防ぎ、腰をS字状にキープ

する。

② 内転筋群

恥骨筋、短内転筋、長内転筋、大内転筋、薄筋からなる太ももの内側の筋群で、

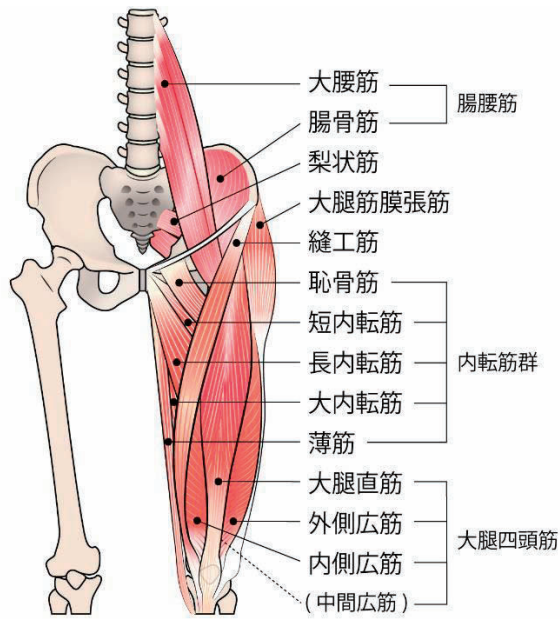
脚を持ち上げたり閉じる動作(股関節内転)をおこなう。

③ 大腿四頭筋

大腿の前面に位置し、全身の筋肉の中で最も強く大きく、基礎代謝を上げる筋肉。

体重を支え、膝関節の伸展機能をつかさどる。

大腿直筋、外側広筋、内側広筋、中間広筋からなる。



④ ^{でんきん} 臀筋

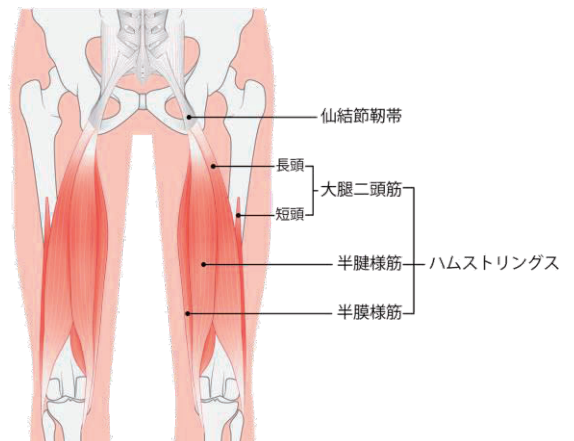
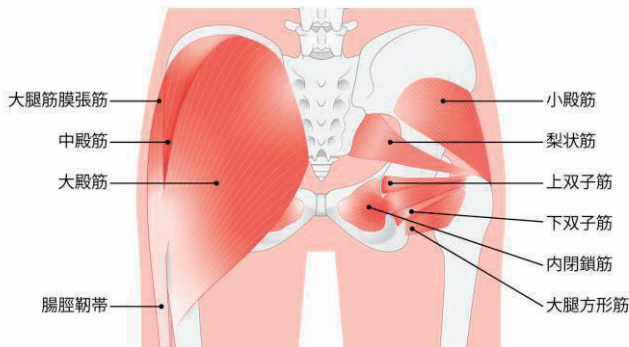
でんぶ けいせい きんにく だいでんきん ちゅうでんきん しょうでんきん
 臀部を形成する筋肉で、大臀筋、中臀筋、小臀筋からなる。

ちよくりつしせい ほじ ほこう こかんせつ しんてん がいてん
 直立姿勢の保持や歩行、股関節の伸展や外転、内転に作用する。

⑤ ^{だいたいにとうきん} 大腿二頭筋

だいたい うしろがわ なが きんにく ちょうとう たんとう
 大腿の後側にある長い筋肉で、長頭、短頭からなる。

ひざ くつきよく だいたい こうほう ひ はたら
 膝の屈曲や大腿を後方に引く働きをする。



⑥前脛骨筋

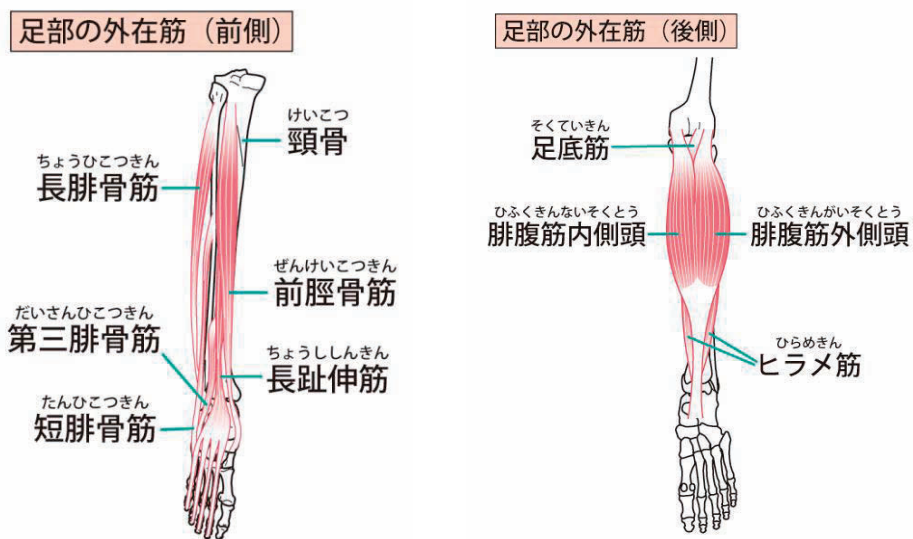
すねの筋肉。脛骨の外側に沿って、脛骨の上部から前面をカバーするように位置。

足の背屈や内反(足底を内側へ向ける運動)をする。

⑦下腿三頭筋

下腿後面にあって、ふくらはぎをつくる。腓腹筋とヒラメ筋からなり、合わさって

アキレス腱となり踵骨につく。主に足首を屈曲させる。



3)足底筋群

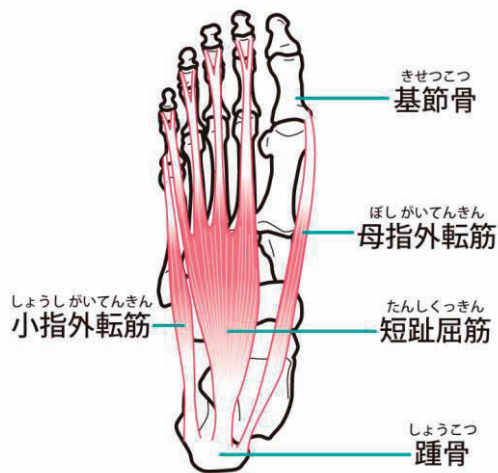
足の裏についている筋肉は足底筋群と呼ばれ、短母趾屈筋、母趾外転筋(足の親指を動

かす)、短小趾屈筋、小趾外転筋(足の小指を動かす)、短趾屈筋、足底方形筋、虫様筋な

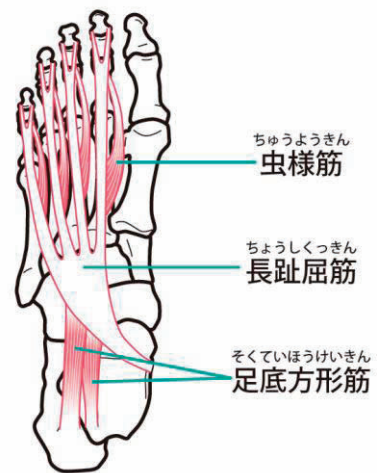
ど数多くの筋肉によって複雑に構成される。足底筋群の筋力により、足の3つのアーチ

(横(足)アーチ・^{うちがわた}内側縦アーチ・^{そとがわた}外側縦アーチ)が^{けいせい}形成され、これがバネのように作用して、体にかる^{じめん}地面からの^{しょうげき}衝撃を^{やわ}和らげている。^{そくていきん}足底筋の^{さいひょうそう}最表層には^{そくていけんまく}足底腱膜という足の^{きせつこつ}基節骨から^{しょうこつ}踵骨にかけて^は張られている^{けんまく}腱の膜があり、これも^{どうよう}同様の^{やくわり}役割をする。

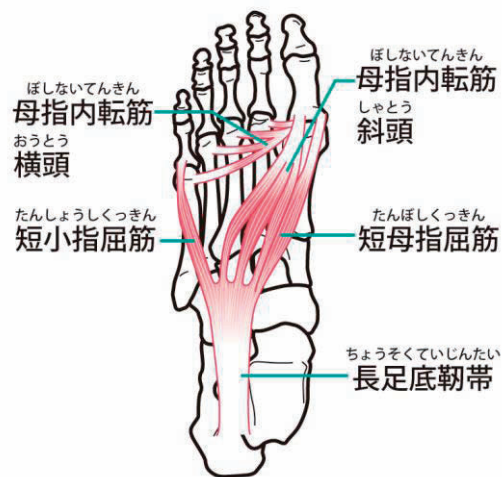
足部の内在筋(第1層) (表層)



足部の内在筋(第2層)



足部の内在筋(第3層)



足部の内在筋(第4層) (深層)



4. ハンドセラピー実習

【 内容 】

○ 手の甲^{こう}

○ 手のひら

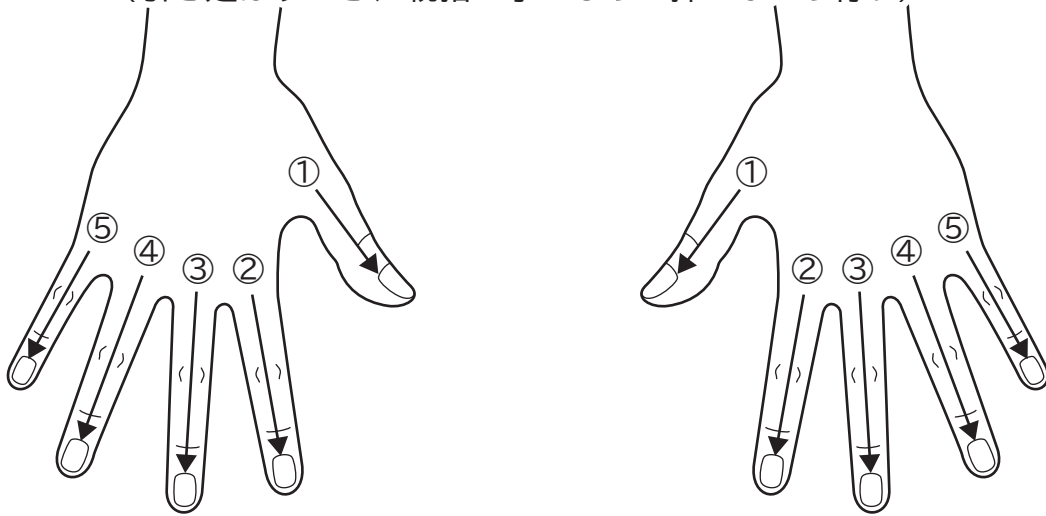
(参考)手の骨格^{さんこう て こっかく}

☆手の甲☆

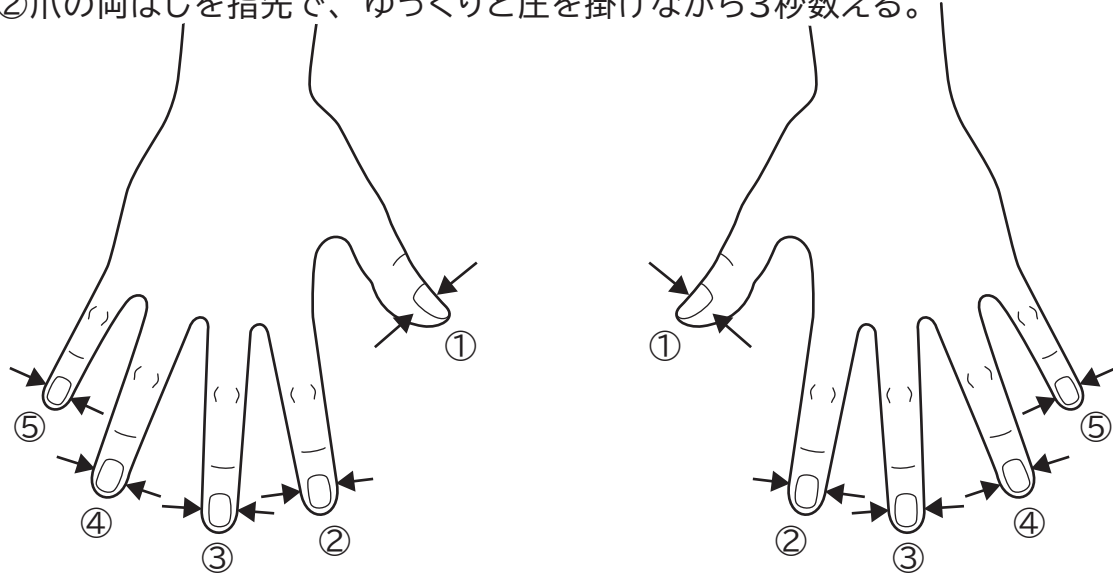
(親指から小指の順番)

① ^{ゆびぜんたい}指全体に ^{あつ}圧を ^か掛けながら ^の引き延ばす。

(引き延ばすとき、親指で手のひらを押えながら行う)

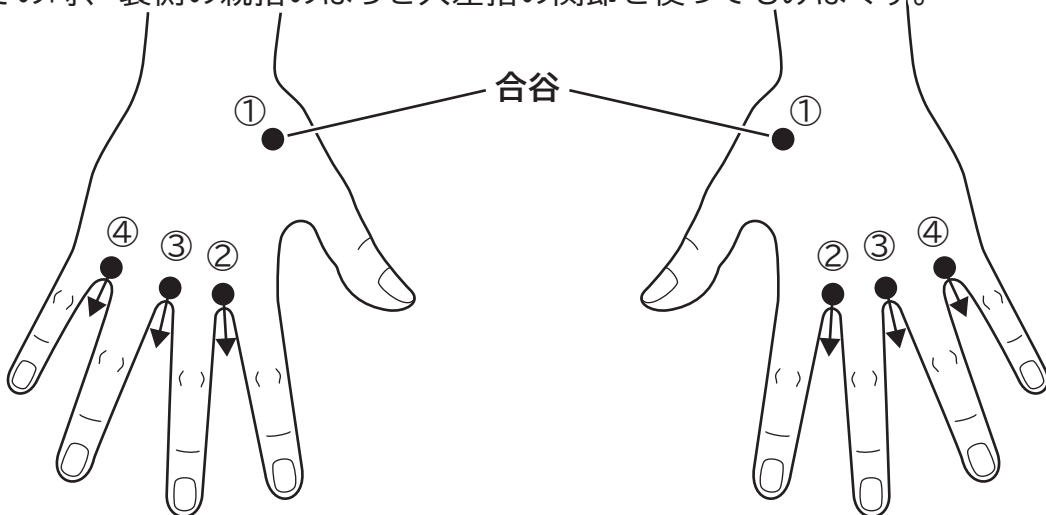


② ^{つめ}爪の ^{りょう}両は ^{ゆびさき}じを ^{あつ}指先で、 ^かゆっくりと ^{びょうかぞ}圧を ^か掛けながら ^か3秒数える。

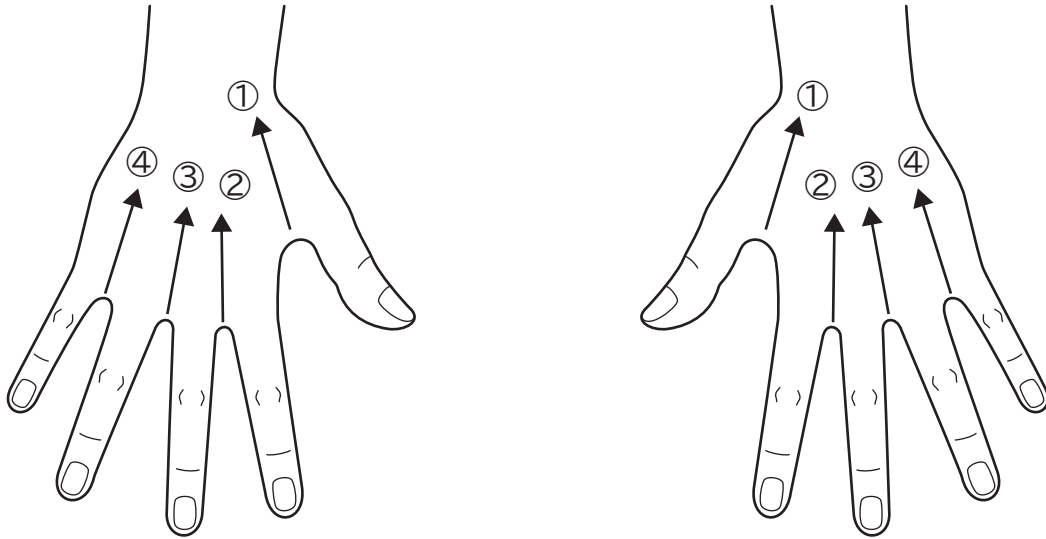


③ ^{ごうこく}合谷を ^{おやゆび}親指で ^{てまえ}手前に ^か引く ^か感じで ^か押す。

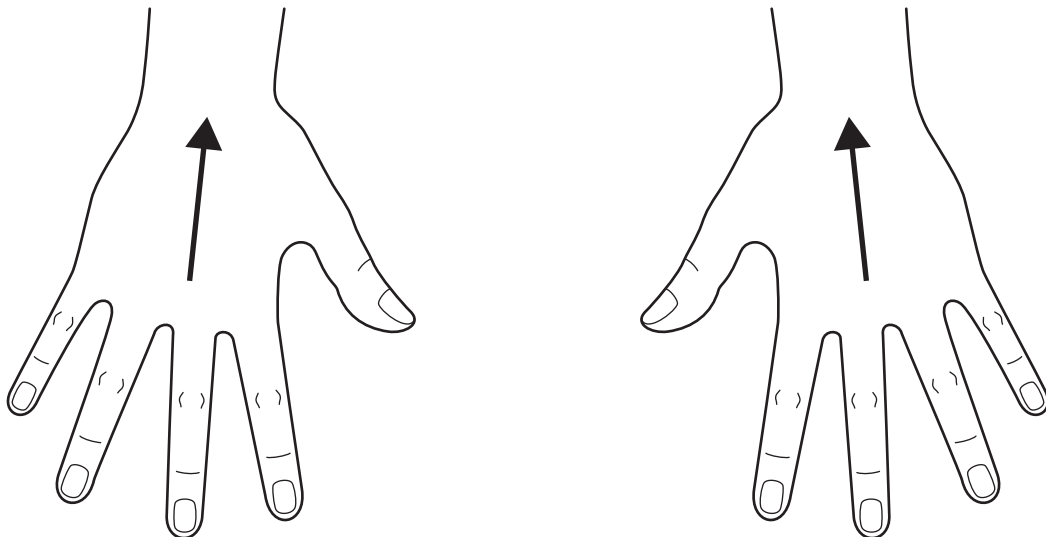
その時、^{うらがわ}裏側の ^{おやゆび}親指の ^{ひとさしゆび}はらを ^{かんせつ}人差指の ^{つか}関節を使ってもみほぐす。



て こう ほね ほね あいだ おやゆび ゆび ね てくび む
 ④手の甲の骨と骨の間を、親指を使って指の付け根から手首に向かってストローク。



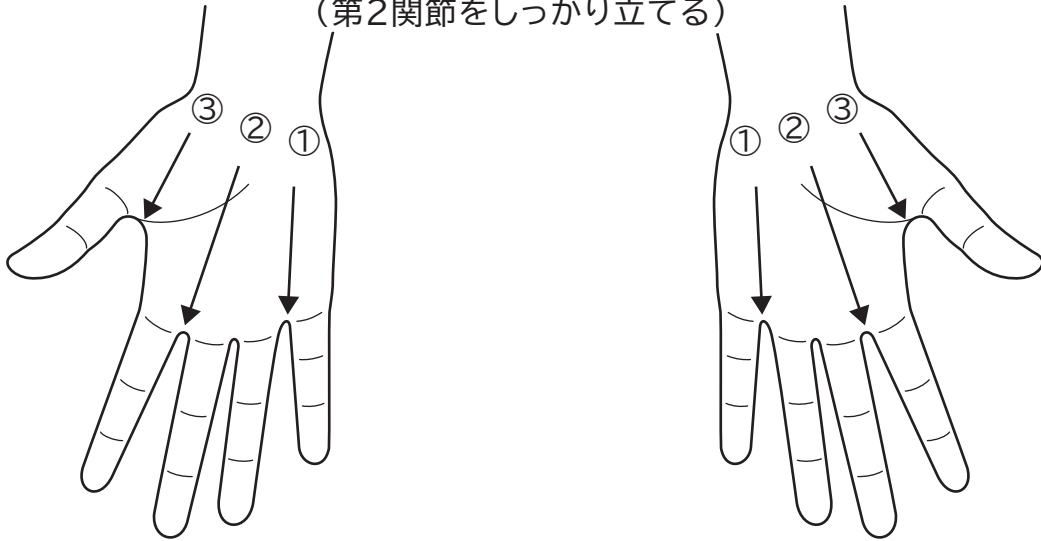
て ぜんたい ゆびさき てくび む あつ か
 ⑤手のひら全体を使って、指先から手首に向かって圧を掛けながらストローク。



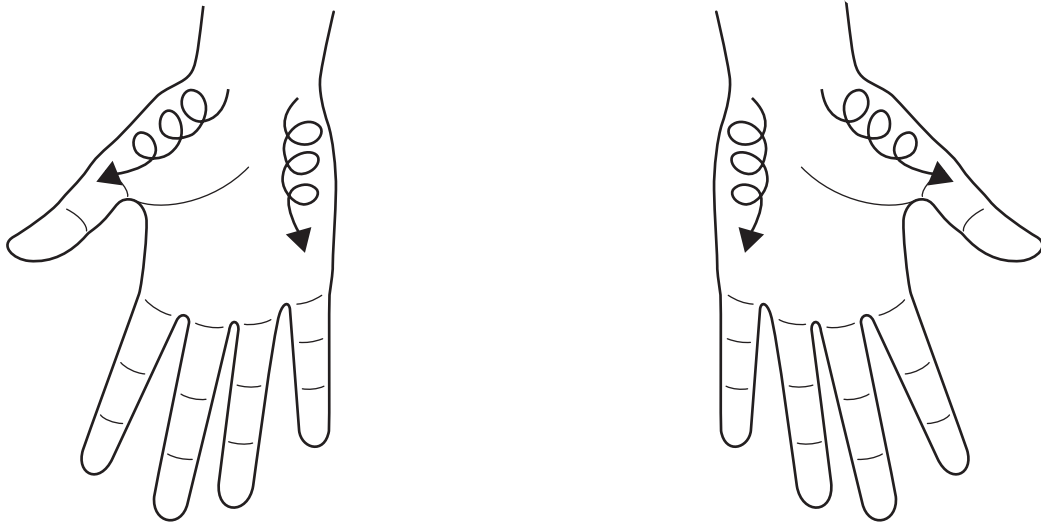
☆手のひら☆

(小指から親指の順番)

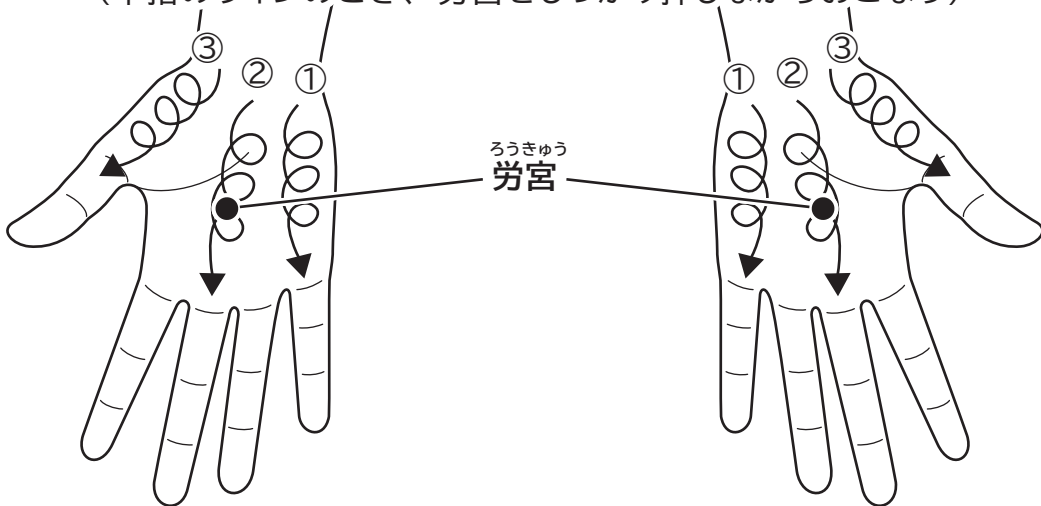
- ① ^{てくび}手首から ^{ゆびさき}指先に向かって **ナックリング**。
(^{だい}第2 ^{かんせつ}関節をしっかりと立てる)



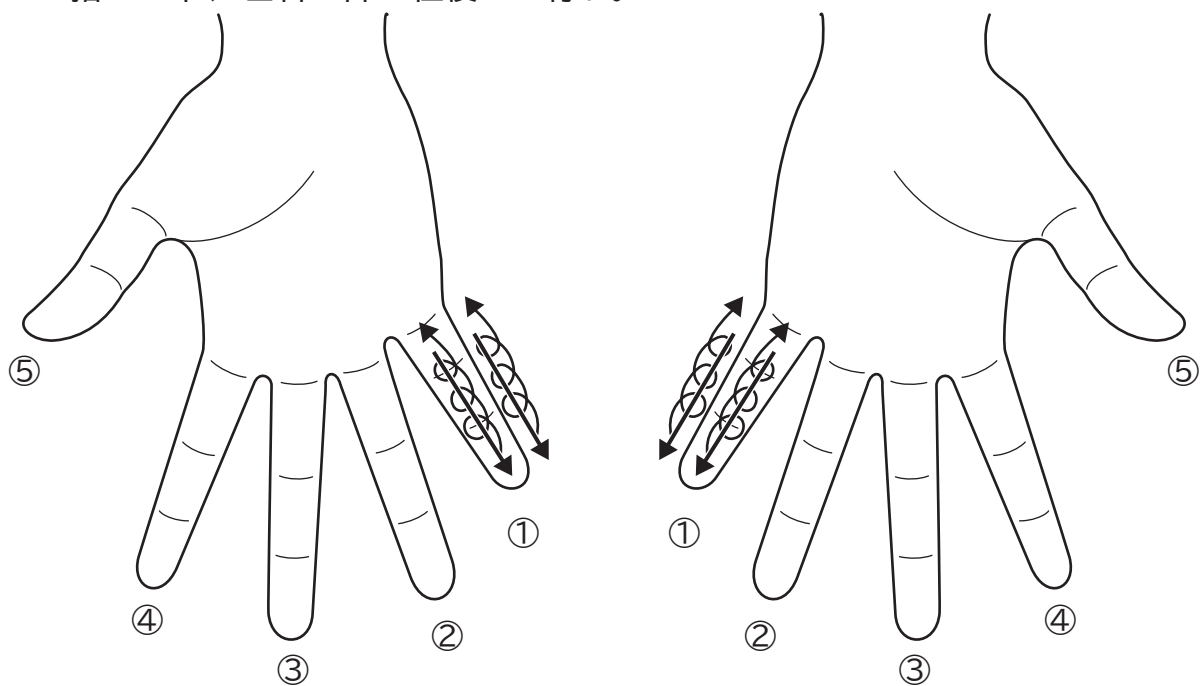
- ② ^{おやゆび}手のひらの ^{親指}のライン、^{こゆび}小指のラインを ^{りょうて}両手の ^{おやゆび}親指を使って **ニーディング**。



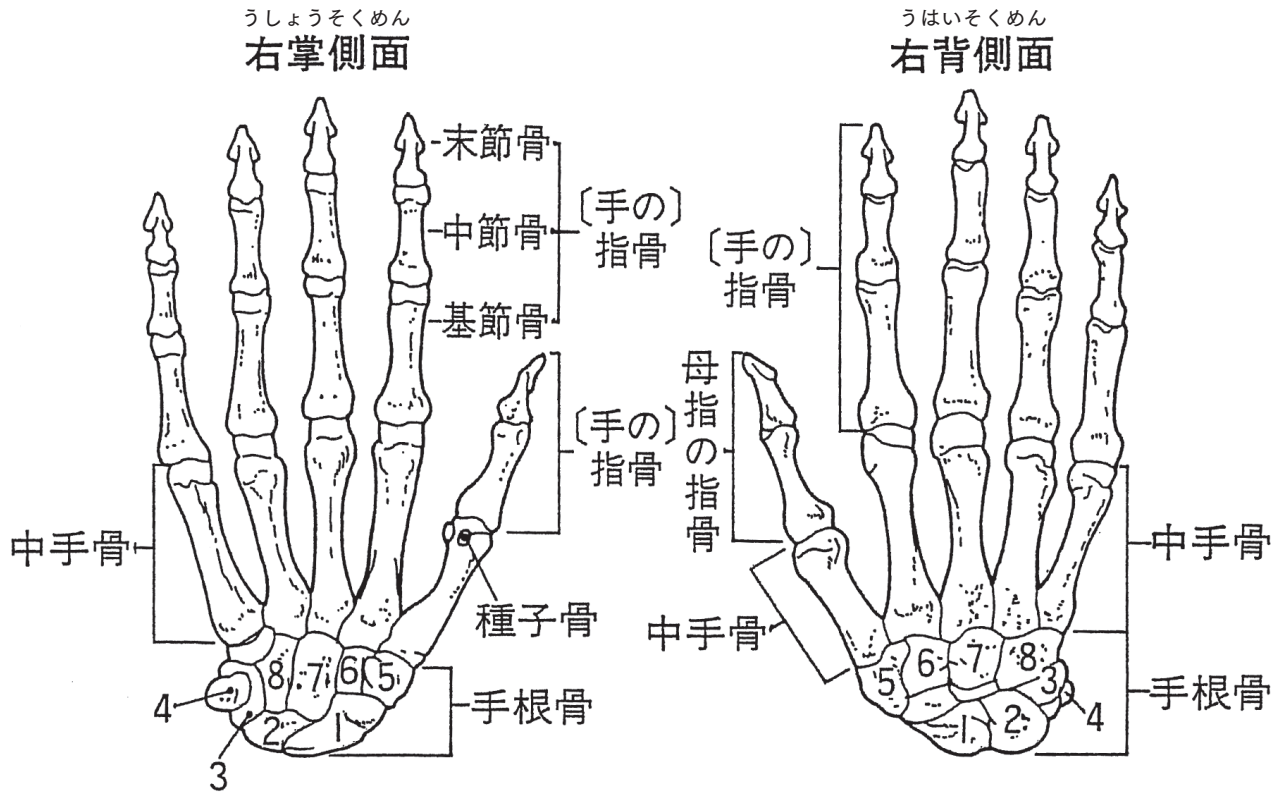
- ③ ^{てくび}手首から ^つ指の ^ね付け根に向かって、^{こゆび}小指のライン、^{なかゆび}中指のライン、^{おやゆび}親指のライン、
3ヶ所のラインを親指を使ってニーディング。
(^{ろうきゆう}中指のラインのとき、^{ろう宮}労宮をしっかりと押しながらおこなう)



④ ^{ゆびさき}指先から^{ゆび}指の^{つけ}付け根まで^ねニーディングし、^{つけ}付け根から^{ゆびさき}指先まで^ひ引き伸ばす。
^{ゆび}指の^{じょうげ}上下、^{さゆう}左右と各^{おうかく}1 往復つつ行う。



☆手の骨格☆



- | | |
|------------|---------|
| 1. [手の]舟状骨 | 5. 大菱形骨 |
| 2. 月状骨 | 6. 小菱形骨 |
| 3. 三角骨 | 7. 有頭骨 |
| 4. 豆状骨 | 8. 有鉤骨 |

フットセラピスト
インアーシュ代表 丸田芳心美 監修

本教材は、文部科学省の教育政策推進事業委託費による委託事業として、豊野高等専修学校が実施した令和5年度「専修学校による地域産業中核的人材養成講座」の成果をとりまとめたものです。

